

特集

驚きの大物 骨格標本に



陸に揚げられたクジラを計測することから作業が始まります



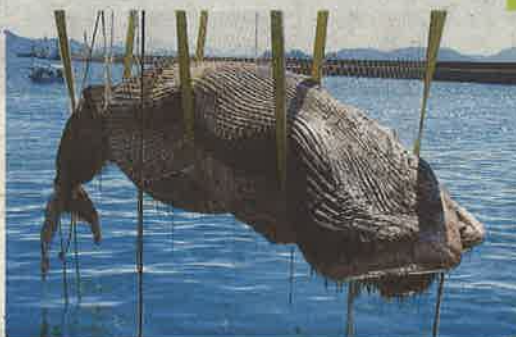
背骨をきれいにする作業。一番奥は頭の骨です

「えっ?」
恐竜学博物館には骨格標本になる動物の情報が時々入りますが、こんな大物は初めて。すぐに大学内の先生方に連絡して、「こんなことは何十年に一度。ぜひ標本にして倉敷や地元の方々に見てもらえるように...」ということになり、意見が合いました。

岡山県や倉敷市など役所の方々をはじめ、国立科学博物館でクジラの研究をされている山田格先生、田島木綿子先生らのグループと、骨格標本づくりに取り組まれている倉敷市立自然史博物館友の会脊椎動物グループに連絡。さらに大阪のないわホネホネ団や、標本作成と重機の専門家に連絡がまわりました。

多くの人が「ぜひ標本に」と最善を尽くしてくださり、9月27日にクレーンで陸上引き揚げ、28日解体作業とということに。体長約12m。27日に間近に見た時は、本当にこれを一日で骨にできるだろうかかと心配になりました。しかし、28日には上記のグループの方々に加えて、うちの大学からも教員と学生合わせて30人が参加。総勢約70人で取り組み、7時間で骨格を分離したのでした。巨大な頭と顎、陸の先祖から進化したことを示す退化した骨盤、長い胃腸など、驚きがいっぱいの7時間でした。

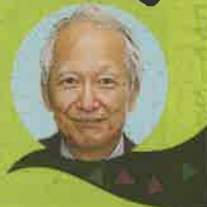
国立科学博物館の皆さんによると、骨の特徴や生殖腺の状態から、ニタリクジラの若いオスとのこと。これから骨格標本にするのが大変ですが、写真や映像と合わせて、倉敷や地元の方々に見てもらえるようにみんなで力を合わせていこうということになりました。



クレーンで海から引き揚げられました。9月27日

倉敷・水島港にクジラが!

岡山理科大学恐竜学博物館館長 石垣忍



恐竜調査隊が行く

動画はこちら



豆知識

ニタリクジラはヒゲクジラの一つ。普通は太平洋などの外洋に生息していて、瀬戸内海で見られることはほとんどないようです。小さな魚やオキアミを食べています。